



報道関係者 各位

NPO法人 放送批評懇談会

発表！2025 年 8 月度ギャラクシー賞月間賞

放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、テレビ、ラジオの番組、関係者を顕彰する「ギャラクシー賞」。ことしで 63 年の歴史を誇ります。

ギャラクシー賞テレビ部門では、「ギャラクシー賞」活動の一環として、毎月、自主的に番組を推奨する「月間賞」を選定しております。今月の月間賞を別紙のとおり発表いたしますので、貴媒体でお取り扱いのほどお願い申し上げます。

ギャラクシー賞テレビ部門は、この日常視聴に基づく「月間賞」と、各社からの応募作品を併せて審査を重ね、毎年の受賞作を決定いたします。2026 年 6 月上旬開催予定の贈賞式にて、大賞をはじめとする各賞が決定、表彰されます。

今後の選考にもご注目いただければ幸いです。

●放送批評懇談会について：1963 年の発足以来、評論家、ジャーナリスト、マスコミ研究者などを会員に、各種の活動を展開しております。放送の専門誌・月刊「GALAC（ぎやらく）」の編集・発行、優れた番組・CM を顕彰する「ギャラクシー賞」の選考・運営、メディア界の動きを解説するセミナーやシンポジウムの開催などを行なっています。

●過去の受賞作をお探しの場合は「ギャラクシー賞データベース（<https://houkon.jp/galaxy-database/>）」をご活用ください（掲載内容：作品名、放送局・制作社名、制作者、出演者、受賞理由など）。

Facebook



X (旧Twitter)



Instagram



<お問い合わせ先>

NPO法人 放送批評懇談会

MAIL : kondankai@houkon.jpHP : <https://www.houkon.jp/>



2025 年 8 月度ギャラクシー賞月間賞

NHKスペシャル「広島グラウンドゼロ 爆心地 500m 生存者たちの“原爆”」

8 月 6 日放送 日本放送協会

爆心地 500 メートル以内で被爆した生存者 78 人を生涯にわたって追跡調査した記録は、多くの人々にとって初めて知る貴重な事実だ。詳細な聞き取りテープから聞こえる被爆者たちの壮絶な経験。その肉声は核の惨禍を生々しく伝える。このような重要な記録が失われず、核の脅威を伝える重要な「警告」として伝えられることは非常に意義がある。

戦後 80 年ドラマ「八月の声を運ぶ男」

8 月 13 日放送 日本放送協会 WOWOW

実話をもとにした、被爆者の声を全国に出向き録音し続けた、元放送局員の物語。戦争体験が薄れていくなかで、その記録の意味合いを、静かに、しかし力強く伝えた。本木雅弘と阿部サダヲの濃密な空間のなかでのやりとり息がつまり、亡き母の思いを録音されていた音声で聴いた娘とともに涙した。戦後 80 年にふさわしい味わい深い作品。

NNNドキュメント' 25「ガマが消える前に 埋もれゆく戦争の記憶」

8 月 17 日放送 日本海テレビジョン放送

沖縄に点在する「ガマ」は、自然洞窟である以上に沖縄戦の痕跡と記憶を残す遺構でもある。場所によっては忘れられ朽ち果てていくガマを、志ある鳥取県に住む清水章宏さんが独自に調査していることに深い尊敬の念を感じさせる。沖縄の局ではない日本海テレビが制作したことにも敬意を表したい。

テレメンタリー2025 シリーズ戦後 80 年「軍都 80 年～ものづくりと防衛産業～」

8 月 23 日放送 名古屋テレビ放送

戦中、軍需産業の集積地だった名古屋は空襲の標的となった。終戦で途絶えた軍需産業は朝鮮戦争で復活。そして現在、国が進める防衛産業の基盤強化によって、自動車産業に依存してきた多くの企業が、防衛産業を事業の柱にしようとしている。80 年の時を経て、ものづくり企業の進むべき道を問う力作。

★詳細は月刊誌「GALAC」2025 年 11 月号に掲載します